

## 10. ば ら

## ・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	トリフミン水和剤	散布	発病初期	5回以内	
39	ピリカット乳剤	散布	発病初期	6回以内	花き類・観葉植物(きく、宿根かすみそう、りんどうを除く)
19	ポリオキシシムAL乳剤	散布	発病初期	8回以内	
M7+19	ポリベリン水和剤	散布	発病初期	8回以内	
3	マネージ乳剤	散布	発病初期	6回以内	
M10	モレスタン水和剤	散布	発病初期	10回以内	花き類・観葉植物(カーネーションを除く)
3	ルビゲン水和剤	散布	-	6回以内	

## ・殺菌剤 (参考農薬)

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M4	オーソサイド水和剤80	散布	-	8回以内	
NC	カリグリーン	散布	発病初期	-	花き類・観葉植物(きくを除く)
3	サルバトーレME	散布	発病初期	7回以内	
M5	ダコニール1000	散布	-	6回以内	
1	トップジンM水和剤	散布	-	5回以内	
NC	ハーモメイト水溶剤	散布	収穫前日まで	-	
M1	ヨネボン水和剤	散布	-	6回以内	

## ・殺虫剤 (参考農薬)

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	オルトラン水和剤	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物
	オルトラン粒剤	株元散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物(きく、宿根スターチス、カーネーション、アリウム、たदैいを除く)
15	カスケード乳剤	散布	発生初期	3回以内	
6	コロマイト水和剤	散布	発生初期	2回以内	
1	スミチオン乳剤	散布	-	6回以内	
21	ダニトロンフロアブル	散布	発生初期	1回	花き類・観葉植物
4	ダントツ粒剤	生育期株元散布	発生初期	4回以内	花き類・観葉植物(きくを除く)
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物(ストック、りんどうを除く)

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決まっているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 蚕毒・魚毒については、「28. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
べと病 (F)	5～10月	1. 施設では、過湿にならないよう密植を避け、換気を図る。 2. 株元の枯死葉は伝染源になるので除去する。 3. 発病を見たら、直ちに罹病葉を除去し、薬剤を散布する。	
黒星病 (F)	5～10月	1. 施設では、過湿にならないよう密植を避け、換気を図る。 2. 株元の枯死葉は伝染源になるので除去する。 3. 発病を見たら、直ちに罹病葉を除去し、薬剤を散布する。 [参考農薬] 1. オーソサイド水和剤80の800倍液、ダコニール1000の1,000倍液、トップジンM水和剤1,500～2,000倍液、サルバトールMEの3,000倍液のいずれかを散布する。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一剤の連用を避けローテーション使用する。
腐らん病 (F)	剪定直後	1. 枯死枝は剪除し、焼却する。	
うどんこ病 (F)	5～10月	1. 発病を見たら、直ちに罹病葉を除去し、薬剤を散布する。 2. ポリオキシシAL乳剤800倍液、マネージ乳剤1,000倍液、ピリカット乳剤、ポリベリン水和剤の2,000倍液、モレスタン水和剤、ルビゲン水和剤の3,000倍液、トリフミン水和剤5,000倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. ヨネポン水和剤500倍液、カリグリーン、ハーモメイト水溶剤の800倍液、ダコニール1000の1,000倍液、トップジンM水和剤1,500～2,000倍液のいずれかを散布する。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一剤の連用を避けローテーション使用する。 2. 特にDMI剤(マネージ、ルビゲン、トリフミン)は連用しない。
灰色かび病 (F)	生育期間	1. 施設では過湿にならないよう密植を避け、換気を図る。 2. 株元の枯死葉は伝染源になるので除去する。 3. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 4. ポリベリン水和剤1,000倍液を散布する。 [参考農薬] 1. ハーモメイト水溶剤800倍液を散布する。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため同一剤を過度に連用しない。
ハダニ類	5月～9月	[参考農薬] 1. カスケード乳剤、ダニトロンフロアブルの1,000倍液、コロマイト水和剤2,000倍液のいずれかを散布する。	1. 乾燥時に発生が多い。 2. 葉裏に十分散布する。 3. コロマイトは蚕毒及び魚毒に、カスケードは蚕毒に、ダニトロンは魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 4. ダニトロンは蚕毒に注意する。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
アブラムシ類	生 育 期 間	<p>[参考農薬]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ダントツ粒剤を1株当たり1g、又はオルトラン粒剤10a当り3～6kgを株元散布する。</li> <li>2. スミチオン乳剤1,000～2,000倍液を散布する。</li> </ol>	
ミカンキイロアザミウマ(アザミウマ類)	生 育 期 間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の開口部を防虫ネット(0.4mm目合い)で覆い、侵入を防ぐ。</li> <li>2. 収穫しなかった花の花粉は雌成虫の餌となるので、速やかに摘み取る。</li> </ol> <p>[参考農薬]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オルトラン水和剤1,000～1,500倍液、カスケード乳剤、モスピラン顆粒水溶剤の2,000倍液のいずれかを散布する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カスケード、モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。</li> </ol>